



vol. 38

2015年7月発行

編集・発行

君津中央病院

☎0438(36)1071

<http://www.hospital.kisarazu.chiba.jp>



理念

私たちは良質で安全な医療を提供し
地域の皆さまに親しまれ、
信頼される病院をめざします。



認定第JC295-3号
審査体制区分4(ver.1.0)
2014.8.23~2019.8.22

日本医療機能評価機構とは、市民が
適切で質の高い医療を安心して享受
できるよう、医療機関の機能を学術
的観点から評価する第三者機関です

基本方針

- 1 接遇とサービスに心がけ、心が安らぐ癒しの環境を整えます。
- 2 高度で良質なわかりやすい医療を提供します。
- 3 包括医療を実践し、地域との連携を大切にします。
- 4 救命救急医療体制の確立と小児、周産期及び終末期医療の充実をめざします。
- 5 職員の教育・研修を推進し、自己研鑽に努めます。
- 6 病院で働く人が一体となり、経営の健全化と満足感のある職場をめざします。

目次

表紙《病院の風景》……………	1	感染制御チームの紹介……………	4
病気のおはなし		看護局 5階東新生児科病棟の紹介……………	5
“がん”はどのような病気なのでしょう? ……	2	君津中央病院附属看護学校……………	6
医務局救命救急センター		大佐和分院よりお知らせ……………	7
救急・集中治療科の紹介……………	3	地域で救急診療を受ける皆様へ……………	8

病気のおはなし “がん”はどのような病気なのでしょう？

☑“がん”の情報に満ちている今日

「2013年に“がん”(癌)で亡くなった方は約37万人。そのうちわけは男性22万人、女性15万人である。“がん”の種類を頻度順でみると、男性は肺癌、胃癌、大腸癌(結腸癌と直腸癌の合計)、女性では大腸癌、肺癌、胃癌の順番となる。」このような記事が新聞や雑誌に掲載され、テレビのニュースで報道されることは日常茶飯事です。また、「この健康食品はがんの発生を抑制する効果が期待される。」といったように、食品、生活習慣、嗜好品(タバコとアルコール)などが“がん”の発生との関連で語られることも大変多くなっています。健康の増進とがんの不安解消を謳ったコピーが巷に溢れているといっても過言ではないでしょう。

誰しも“がん”で死にたくない、“がん”で苦しみにたくないという“がん”に対する漠然とした不安を持っていることは確かなのですが、“がん”のことを知らずして不安ばかりを募らせてはいないでしょうか？

不安は不安の対象となっているものの顔がはっきりと見えないことから生じる人間特有の心の状態で、恐怖と全く質が異なります。不安を和らげる方法はただ一つ。他人のひそひそ話を安易に信じるのではなく、自らの意志で相手をよく知ることです。



☑“がん”はどのような病気なのでしょう？

“がん”は高齢になってから発生する病気です。具体的には50歳を超えるところから増加しはじめ、加齢とともに増えていきます。30代後半から40歳代では女性がやや多いのですが、60歳代以降では男性が顕著に増加します。つまり、“がん”の最大の危険因子は《加齢》ということになります。人間誰しも歳を取りながら老いていくことは当たり前のことなので、がんの最大の危険因子である加齢の影響は誰しも同じということになります。

では何故、今日、がんが増加したのでしょうか？その原因は簡単なことです。戦争がなく栄養状態や衛生面が改善し、日本人の平均寿命が飛躍的に延びたからです。2012年の人口統計によれば、女性の平均寿命は85歳を超え男性は80歳に迫っています。しかし、1947年(昭和22年)の統計では日本人の平均寿命は女性53歳男性50歳でした。つまり、今から68年前の当時は、がん年齢に達するまでに日本人は戦争や栄養不良状態や感染症で死亡していたのです。してみれば、“人間五十年”といっても不思議ではない人間の一生であり、がんが死亡原因になる程長く生きることができなかった状況が想像されます。当時、戦争の不安やその日の食料確保ができない不安はあってもがんの不安は極めて少なかったと言えるでしょう。したがって、寿命がのびて長生きをすればするほどがんで亡くなる可能性が高くなり、がんの不安が顔を出す今日となったといえます。

では、一体、人間は何歳まで生きられるのでしょうか？人間の寿命は今日理論的に計算が可能で、その限界は120歳です。したがって、160歳の高齢者が確認されたというような報道がなされたとしたら、それを信用することはできません。2013年9月13日の某新聞の夕刊は、9月16日の敬老の日を前に日本の100歳以上老人は43年間連続で最多を更新し、5万人を超え5万4,397人となったと報じました。その85%が女性です。女性の最高齢者は大阪市の大川ミサヲさんで115歳(世界最高)、男性はさいたま市の百井盛さんで110歳です。ここまでの生を刻んだ方は、がん^で亡くなる可能性はもちろん高いと言えますが、むしろ、天寿を全うした幸運な人間ということになるでしょう。

がんという病気は、人間が長生きをすると避けて通ることの難しい病気であることをご理解いただけましたでしょうか？偶然に生まれ必然の死にむかって歩むことが人の一生とするなら、がんのことを正しくとらえることは、自らの老いと死を真摯^{しんし}に考えることに連なるのではないかと私は考えています。

(病理診断科 井上 泰)

医務局 救命救急センター 救急・集中治療科の紹介

当院は県内にある11の救命救急センター(3次救急医療機関)の中でも千葉県救急医療センター、旭中央病院に次いで3番目(昭和59年)に指定された歴史をもちます。それ以来、地域の重症患者を中心に診療を続け、年間の救急車受け入れ台数は5,000台を超えました。今回はその救命救急センターの一部門である救急・集中治療科の役割についてご紹介いたします。

救命救急センターには昼夜を問わず、様々な重症患者が搬入されてきます。これに対して脳血管障害や虚血性心疾患など、担当科が明らかな疾患に対しては救命救急センター兼任の脳神経外科、循環器科医師らが中心となり救急診療を行います。多発外傷、中毒、多臓器不全や心肺停止などの最重症例では担当科が多岐にわたるため、診療科の枠に縛られず、これらの重症度を迅速かつ的確に判断し、治療につなぐことができる専門医が必要です。このような専門研修を修めているのが、救急科専門医であり、これらの医師で構成されているのが救急・集中治療科です。救急・集中治療科は救命救急センター専任であり、上記のような重症患者の初期治療を行うとともに、引き続き集中治療も担当しています。

救急治療の様子



一般に病院の勤務医は往診を除き、病院の外へ診療に出かけることはありません。しかし、救急・集中治療科は病院内の診療のほか、病院前救護、診療も担当します。例えば、常時、病院外へ出ることのできない医師に代わり、現場で救命救急に携わる救急救命士の育成にも力を注いでいます。病院前診療としては、千葉県2機目のドクターヘリ基地として7年目を迎え、

南房総の救急事案に対応、出動件数は3,000件を超えました。

ドクターヘリによる搬送



また、きたるべき大災害に備え、災害医療派遣チーム(DMAT)の育成にも励んでおり、現在、DMAT登録隊員も5名在籍しています。さきの東日本大震災では2隊のDMATをそれぞれ北茨城、釜石・大槌へ派遣し、崩壊しかかった病院や避難所の支援を行いました。

災害現場での医療活動の様子



以上が救命救急センターの救急・集中治療科の役割です。医療は高度化し、医師に対するニーズも時代とともに変化しますが、救急科専門医ほど、その守備範囲が増え、複雑化した診療科はありません。しかし、一つ一つを考えてみると、そのすべては地域住民が安心して生活を営むための基本的な医療であることがわかります。医員の人数も少なく、できることは限られますが、これからも地域住民のために頑張ります。

(救急・集中治療科 北村 伸哉)

感染制御チームの紹介



ICTの紹介

ICTとはインфекション(Infection:感染)コントロール(Control:制御)チーム(Team)の略です。ICTは感染制御医師を中心として感染制御認定臨床微生物検査技師、感染管理認定看護師、看護師長、薬剤師、事務職員で構成され、病院長直轄の感染対策実働部隊として活動しています。

ICTの活動は、院内のラウンドや細菌検出状況の監視、職員に対する感染対策教育、季節ごとに流行するノロ、インフルエンザ対策などの定期的なものと、デング熱などの輸入感染症や新型感染症の発生、集団院内感染などの突発的な事例への対応があり、常に最前線で対策に奔走しています。

感染対策に対する基本姿勢

院内感染は元々の治療を目的とした病気とは別に、新たに院内で感染した感染症です。院内感染は、人から人または医療器具などを介して感染し、特に免疫力の低下した患者様や新生児、お年寄りなど、通常は病気を引き起こすことのない細菌でも感染症(日和見感染)を起こす場合があります。その中には多剤耐性菌といった抗生物質が効きにくくなる細菌もあり、大きな社会問題となっています。



当院では職員を含め、病院に出入りする全ての人を感染から守ることを基本姿勢とし、感染管理体制の構築と積極的な取り組みを行う事としています。

感染対策に関する体制

当院では院内感染対策委員会が設置され、感染予防対策に関する事項を審議、決定しています。委員は病院長をはじめとして看護局長、事務局長、薬剤科長、検査科長の5名にICTの7名を加えた12名で構成されています。委員以外にもオブザーバーとして新生児センター長や救命救急センター長、外科、小児科などの医師、コメディカル13名が登録され、委員会に参加しています。

院内ラウンドの様子



患者様にご協力をお願い

咳・クシャミに含まれる細菌やウイルスは感染の原因になる事があります。咳・クシャミのある方はマスクの着用を一年間通じてお願いしています。また、職員から患者様への感染を予防するため、マスクを着用している職員がおりますのでご了承下さい。

(感染制御チーム 堀井 俊男)



看護局 5階東新生児科病棟の紹介

5階東新生児科病棟は、NICU(新生児集中治療室)9床・GCU(回復期病室)32床の合計41床からなる新生児集中治療病棟です。施設は産科病棟のとなりに位置し、分娩室が隣接して出産時の新生児の緊急事態に、新生児科医師が速やかに蘇生対応できる設備となっています。



また、木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市の4市はもちろん、市原市や千葉市などの産科や病院からの新生児入院依頼に対し、新生児搬送専用の救急車ドクターカーを保有しており、新生児科医師と看護師が専用の保育器と器材を持参の上24時間出動可能な体制をとっています。平成26年度は53件の出動がありました。ドクターカーはフロント上部に鏡文字で「NICU」と表示されていますので、車のバックミラーに映って初めてNICU専用の救急車とわかります。ご存じでしたでしょうか？

当院保有のドクターカー



新生児科病棟に入院する赤ちゃんは、早産で生まれた1,000gに満たない小さな未熟な赤ちゃんから、生まれながらに病気があり、手術や治療を必要とする赤ちゃんが入院し、家庭で生活ができる体重や状態に達し、家族が赤ちゃんを迎える準備ができれば退院となります。ですから、長期間入院を必要とする新生児も多く、両親を中心にご家族に寄り添った医療・看護が提供出来るように、主治医と担当看護師が中心となって日々のケアを行っています。例えば、ひとりひとりの赤ちゃんに「保育日記」を準備して日々の体重の増加をはじめ様子を記入しています。保育日記は赤ちゃんが成長したおりに読み聞かせることのできる大切な記念の品となっているようです。



退院した後は健やかな成長と時期に応じた家族の不安解消に、新生児科フォローアップ外来を定期的な受診をして頂いています。その外来には新生児科病棟看護師が診察の介助を担当して、顔見知りの看護師に気軽に声をかけていただけるようにしています。

更に地域の市町村保健師がおこなう新生児訪問に際しては、ご両親の同意を得て保健師に連絡を取り、地域で生活する上で困ったときの相談相手にもなって頂いています。

病院の産科・新生児科・小児科の連携はもとより、ソーシャルワーカーや地域の保健師とも協力して、赤ちゃんの成長と家族をこれからも支えていきたいと思っています。

(5階東新生児科病棟 溝口 久代)

君津中央病院附属看護学校

新任のご挨拶

今年は、関東では桜が早々と咲いて、その後は雪が降ったり、急に夏が出てきて蒸し暑い日が続いたり、という異常気象で、季節感がなくなっているように感じますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか？本年の4月から、前任の須田純夫先生に代わって、君津中央病院附属看護学校の校長に就任いたしました。着任早々、新二、三年生の始業式、新一年生の入学式と、慣れない仕事で目が回った記憶がありますが、最近ようやく落ち着いてきたような気がしております。

本校は、平成25年度末に念願の新校舎が完成し、それを機に一学年の定員数を60名に増員しています。今年の4月からは1年生、2年生が60名となり、来年4月からは3年生まで60名体制となって、学校としてフル操業の状態となります。人間愛に基づいた豊かな感受性を育み、看護師としての責任を自覚し、専門的知識、技術を身につけ、社会に貢献できる看護者を育成することを本校の理念として、教育スタッフも大幅に増員して学校の運営に当たっていますが、来年は30名、再来年3月からいよいよ60名の卒業生を送り出すことになります。

学校では、学生増に対する教室編成の見直しなど、ハード面の改良にも現在取り組んでおります。また、君津中央病院を中心とした実地の臨床実習を始め、小児看護実習、精神看護実習、災害看護実習などでは、地域の多くの臨床施設の指導者の皆様や、患者さま、利用者の皆様のご指導、ご協力を頂き、学生実習が可能となっておりますが、学生数の増加による影響もこれから出てくるものと思われます。

病院職員を中心に、ご協力を頂いている地域の多くの皆様は、学生の数の増加というこの機会を前向きにとらえていただきたいと考えております。学生を医療チームのなかに取り込むことにより、医療の専門職としての、専門的知識、技術、態度を身につけられるよう、今後とも、より一層のご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



(学校長 柴 光年)

Information

オープンキャンパスのお知らせ

開催日 第1回 7月30日(木)
第2回 8月 1日(土)

時 間 13:00~15:30まで

内 容 学校説明会、高齢者体験、妊婦・沐浴体験、手浴、模擬授業、学生交流会、進路相談会等

持ち物 筆記用具

問合せ・申し込み

ホームページまたは、事務係までお問い合わせ下さい。
TEL 0438-53-8767
URL <http://www1a.biglobe.ne.jp/kimikan/>



お知らせ

みんな集まれ!

「第9回リハビリテーション公開講座」

テ ー マ	「来て、見て、やって! いきいき健康講座」
日 時	平成27年11月1日(土) 10時~17時 (開催時間 13時~16時30分)
会 場	木更津市総合福祉会館 〒292-0834 木更津市潮見 2-9
共 催	一般社団法人千葉県理学療法士会 一般社団法人千葉県作業療法士会 一般社団法人千葉県言語聴覚士会 千葉県リハ医学懇話会
運 営	第9回リハビリテーション公開講座実行委員会
入 場 料	無料
参加対象	県民、医療・介護関係者
内 容	①医師の講演 ②参加者体験型ブースの設置: 主催4団体のブースを設け、各ブース内で リハビリ体験、その紹介、 県民からの相談対応。
申込方法	当日受付(事前申し込み不要)
問合せ先	第9回リハビリテーション公開講座実行委員会 委員長 中頭 賢志郎 君津中央病院 TEL 0438-36-1071 E-mail reha@kc-hosp.or.jp

大佐和分院よりお知らせ

人間ドック受付中
TEL 0439-65-1251

「27年度が始まって」

平成27年度も2ヶ月が経ち、初夏を向え陽射しが眩しく潮風の香る季節となってきました。人事異動等もあり、職員数は正規職員が32名、臨時職員が39名の71名体制となっています。分院に受診されている患者数は1日平均で入院が34人、外来が184人となっていますが、大多数の患者さまは高齢層の方で占められております。

外来診療の受付時間は午前 8:00～11:30（午後診療のある日は午後 12:00～15:00）ですが、地元富津市にお住まいの方が大勢いらっしゃるため、診察券の受付開始が午前6時からということもあり、診療開始前のかなり早い時間から待合室での井戸端会議がよく行われております。

きっと居心地がよいのかな、と感じています。病院なのに朗らかな気持ちになります。

時には電話での問合せにこんなこともあります。「今日は〇〇に予約をしてあるけど、具合が悪いから行かないので ×× へ伝えといて……」一例です。

外来待合の様子



現在、分院の施設も建築から40数年が経過し、建物や設備の老朽化、数回の増改築を行っていることから狭あい化も進んでいます。このため、本年度が初年度となる第4次3か年経営計画の中で、分院建替計画の基本構想・基本計画が検討されることとなっております。これからの分院計画が楽しみなところです!!

大佐和分院正面



ところで職員では、分院の理念でもあります「当院は、患者様の健康保持と安心を提供する包括医療に取り組み、地域住民の皆様に愛されて育てられる病院を目指します。」に沿えるよう、一丸となって良質な医療サービスを提供するため、地域医療に取り組んで行きたいと考えております。ご支援の程よろしくお願いいたします。

最後になりますが、分院では小児科の医師もおりますので、乳幼児健診・小児の予防接種の予約から、成人の方へは各種予防接種・マンモグラフィー（乳房撮影）の予約なども行っております。ぜひお気軽にお声かけください。

また、人間ドックの受付も随時行っておりますので併せてご案内いたします。

（事務係 長谷川 英範）

外来診療担当医表

（平成27年7月1日～）

	診察室	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		備 考
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
内 科 小 児 科	1	村山				村山		村山				*村山医師 (旧姓 山本医師)
	2	田中		田中		三浦		田中		田中		
	3			北湯口		北湯口		北湯口 (桐谷)	(毎月最終 木曜日は 桐谷)	北湯口		
	5	安達				安達				安達		
循環器科			山本・松戸・ 関根(交代)									
神経内科	1			藤沼								
外 科	5							朱				
整形外科	5			保住								
皮 膚 科	5				稲福・吉岡 (注)							(注) 稲福医師と 吉岡医師の 3ヶ月交替にな ります。
泌尿器科				金坂								
眼 科		佐々木	佐々木	佐々木		佐々木	佐々木	佐々木		佐々木		
人間ドック						田中				山倉		

受付時間
午前 8:00～11:30
午後 12:00～15:00

診療開始時間
午前 9:00～
午後 13:30～（皮膚科 14:00～）

国保直営君津中央病院大佐和分院
富津市千種新田710番地
TEL 0439-65-1251

君津中央病院広報誌「クローバー」の表紙写真募集について

病院を利用する皆様の視点から撮影した、君津中央病院の写真を募集しています。応募の方法は、病院ウェブサイトより

ホーム ▶ 広報誌「クローバー」 ▶ クローバー表紙写真の募集
をご覧ください。



地域で救急診療を受ける皆様へ

君津保健医療圏(木更津市・君津市・富津市・袖ケ浦市)での救急医療体制は三段式となっております。

平日は、まず「**かかりつけ医**」の受診をお願いいたします。



(君津木更津医師会ホームページより引用改変)

時間外選定療養費のご負担について

君津中央病院の救急外来では、緊急性が高く重症の患者さまを24時間体制で受入れておりますが、緊急を要しない患者さまの増加により、医師の負担が大きくなっております。

とくに患者数の多い小児科については、約9割が入院を必要としない患者さまの診療となっており、緊急性の高い患者さまの診療に支障をきたしております。また、小児科医師の負担も増加しており、本来の救急医療機関として小児救急の機能を維持していくことが大変困難な状況となっております。

つきましては、緊急性のない軽症の小児の患者さまが救急外来を受診された場合、通常の医療費に加え、時間外選定療養費として平成27年10月1日より自費で5,400円(税込み)をご負担いただくことを予定しております。

小児救急医療の継続のためにご理解くださるようお願いいたします。

(君津中央病院長)